

奥八女の里“ちゃらんけ”小噺の件

椎窓たけし

昭和も晩年の頃のはなし、福岡県下一の高峰、釈迦岳、御前岳の山麓、矢部川源流、八ッ滝一帯を、キャンプ、登山愛好者を呼ぶ公園整備にとりくんた。

それは賑わったものであったが、PR誌として、『SO
MARIAN』と題し、東急エージェンシー企画に依って刊行、ファンに愛読された。詩人各務章氏、左座富美子さん、ドラマ脚本家の芝修一氏らのインタビュも掲載であるが、只今、御存じの方、果して幾人でしょうか……。

この小冊子に、私は毎号、「杣の里」“むかしむかし”と標題し、小咄を連載している。三十四篇、大半、私自身の創作、思いつきの“つくり咄”である。

九十の齢を越える只今の老骨、今とりだし、この回想、よくぞ書いたもんだと感嘆、読み返しのおりおり……。

。天狗さんの徳利——一本ばの下駄ばきで酒買いに、村へおりてくるおはなし

。コズミトコの足かけお地藏さんの件

。鳩雑^{ぞうすい}粹をお殿さまがよろこんでお召しの件

。「他人の弓をだま^だま^まってひくな……」

。カラタチ村訪問記

。もがり笛——虎落^{もがり}笛の吹くをめぐる恋ばなし

。天狗さんのうちわ

読み返して、われながら、三十四篇の創作小咄である

ことに回顧感嘆しばし……。

まあ何処か、復刻、出版していただくお方は……。

ひっそりと小箱にしまっておけば、あて……にはしませませんが、このような次第を、遺書箱に入れておきましょう。

令和三年十一月一日（九十二歳）